

国立国語研究所学術情報リポジトリ

表紙, 目次, 奥付, その他

雑誌名	日本語教育論集
巻	22
発行年	2006-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1328/00001867/

日本語教育論集

22号 2006

[本号の読みどころ]

[研究論文]

韓国人日本語学習者を対象とした日本語の文構成能力に関する研究
金 宥暎

[報告]

副詞「きっと」の習得に関する研究
－中国人日本語学習者における典型的用法から考える－ 王 冲

辞書検索能力を養成する初級漢字カリキュラムの理念と実践
柳町 智治・副田 恵理子・平塚 真理・和田 衣世

[研究ノート]

「こうして」の意味と用法
－談話を終結させる機能に着目して－ 俵山 雄司

[英文要旨]

平成17年度日本語教育上級研修報告
平成16・17年度日本語教育研究プロジェクトコース報告
平成17年度日本語教育短期研修報告
『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領

日本語教育論集

22

2006

日 本 語 教 育 論 集 第 22 号

目 次

[本号の読みどころ]	1
[研究論文]	
韓国語日本語学習者を対象とした日本語の文構成能力に関する研究 金 宥暻	3
[報告]	
副詞「きっと」の習得に関する研究 －中国人日本語学習者における典型的用法から考える－ 王 冲	19
辞書検索能力を養成する初級漢字カリキュラムの理念と実践 柳町 智治・副田恵理子 平塚 真理・和田 衣世	33
[研究ノート]	
「こうして」の意味と用法 －談話を終結させる機能に着目して－ 俵山 雄司	49
[英文要旨]	59
平成 17 年度日本語教育上級研修報告	63
平成 16・17 年度日本語教育研究プロジェクトコース報告	65
平成 17 年度日本語教育短期研修報告	67
『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領	69

『日本語教育論集』投稿規定・執筆要領

1. 目的

本誌は、日本語教育および日本語教師教育の内容・方法に関わる研究、特に、教育実践にもとづいた研究、新たな視点に立つ研究、将来の展開が期待される研究の成果を積極的に公表することにより、日本語教育の発展に寄与しようとするものである。

2. 投稿資格

上記の目的に合致する内容の原稿であれば、投稿資格は問わない。

3. 原稿の種類

投稿原稿は未発表のものに限る。ただし、学会における口頭発表等を論文の形式にまとめなおしたのも未発表とみなす。投稿原稿の種類は以下のとおり。

研究論文：オリジナルな知見や提言を含む理論的、実証的な研究論文
報告：教育実践の報告・分析、調査報告、等。

研究ノート：上記の研究論文および報告に至る前の、萌芽的・探索的な段階の研究・報告、等

尚、特定のテーマを設け、内外の研究者に執筆を依頼することがある。

4. 原稿の書式その他

- 1) 原稿は日本語または英語で執筆する。
- 2) 原稿は和文論文の場合、A4判横書き、40字×35行で作成し、研究論文および報告は14ページ以内、研究ノートは8ページ以内とする。英文論文の場合、A4判1ページあたり30行とし研究論文および報告は20ページ以内、研究ノートは12ページ以内。いずれも、タイトル、図表、資料等を含むこととする。
- 3) タイトル（和文および英文）、要旨（和文論文の場合は300字以内、英文論文の場合は200語以内）、キーワード（5つ以内）、本文の順で記述する。
- 4) 注と文献は本文の後にまとめて示す。
- 5) 3) に示した要旨とは別に、英文要旨・英文キーワード（和文論文の場合）または和文要旨・和文キーワード（英文論文の場合）を添付する。分量は3)と同じ。
- 6) 原稿はワープロを使用してできるだけ

刷り上がり時のイメージに近い形で作成することが望ましい。

- 7) 投稿時は、審査用複写3部を提出し、審査終了後編集委員会の通知に従い印刷用原稿およびフロッピーを提出する。原稿は原則として返却しない。
- 8) 別紙に、論文タイトル、上記3.の内容区分、執筆者、所属機関名、連絡先（郵便番号、住所、電話番号、ファクス番号、Eメールアドレス）を記し、原稿とともに提出する。

5. 投稿締め切り

23号においては、2006年9月1日（必着）を締め切りとする。

6. 採否の決定

本誌編集委員会が査読・審査し、採否を決定したうえ、締め切り日から3か月以内に結果を知らせる。

7. 採録決定後の修正

採録決定後、体裁や書式について編集委員会から著者に修正を求める（あるいは編集委員会の判断で書式の細部を変更する）ことがある。

8. 採録となった執筆者には、掲載号2部を進呈する。

9. 著作権

- 1) 図版の転載など著作権にかかわることがらは、投稿の際に執筆者の責任において必要な処理を行うこと。
- 2) 掲載された論文等の著作権（著作権法第27条、28条を含む）は国立国語研究所に帰属する。

10. 発行予定

2007年3月末

*投稿原稿は、下記編集委員会まで郵送のこと。
〒190-8561 東京都立川市緑町 3591-2
国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会
*問い合わせは、文書・Fax または E-mail で編集委員会まで。
〒190-8561 東京都立川市緑町 3591-2
国立国語研究所『日本語教育論集』編集委員会
Fax : 042-540-4341
E-mail : ronshu@kokken.go.jp
URL : <http://www.kokken.go.jp/js/>

◇・◇・◇・◇編集後記◇・◇・◇・◇

第22号には11編の投稿があり、研究論文1本、報告2本、研究ノート1本の計4本が掲載されることとなりました。2001年春に当研究所が独立行政法人となったのにもない、本論文集は表紙やサイズを一新するとともに、日本語教育における様々な分野のうち、特に、教育実践あるいは教師教育をテーマにした論文を積極的に紹介する姿勢を強調してきました。その結果、現在、投稿される論文の多くが本誌の趣旨に合致した内容のものとなりました。これは、本誌のあり方が日本語教育関係者に認知されつつあるということの表れではないかと考えております。

しかしながら、現場における実践を「論文」の形で世に問おうとすることは、実践を中心に活躍していらっしゃる先生方にとって大きな困難を伴う場合が多いようです。また、自らの実践を過小評価し、公表するまでもないと考えていらっしゃる方も少なくありません。こういった現場の先生方に対し、実践研究の大変さよりも大切さをご理解いただけるような論文を数多くご紹介し、同時に、実践研究の公表の場として本誌を活用していただければと願っています。そして、実践研究の充実を図ることにより、日本語教育の発展に貢献することを目指し、今後も本誌は、優れた教育実践とともに、その実践を支える教師の姿を紹介するための工夫を続けていきたいと思っております。

皆様の積極的な投稿を期待しております。また、本誌に関する御意見もお待ちしております。

編集委員会（記：金田）

*『日本語教育論集』ホームページ：<http://www.kokken.go.jp/jsl>

*御意見・御質問はこちらへ：ronshu@kokken.go.jp

『日本語教育論集』22号 執筆者

金 宥暲（立命館アジア太平洋大学・九州情報大学）
王 冲（お茶の水女子大学大学院博士課程）
柳町 智治（北海道大学留学生センター）
副田恵理子（藤女子大学文学部）
平塚 真理（北海道大学留学生センター）
和田 衣世（ケラニア大学現代言語学科）
俵山 雄司（筑波大学大学院博士課程）

日本語教育論集編集委員会

委員

阿久津 智（拓殖大学）
阿部 洋子（国際交流基金日本語国際センター）
井上 優（国立国語研究所）
小河原義朗（国立国語研究所）
金田 智子（国立国語研究所）
文野 峯子（人間環境大学）
柳澤 好昭（国立国語研究所）
山崎けい子（富山大学）

査読協力者（所属略）

石井恵理子，石黒 圭，生越 直樹，加納千恵子，塩入 すみ，杉村 泰，
前田 直子，丸山 岳彦，山内 博之

事務局

二瓶 知子

日本語教育論集 22

発行 平成18年3月 平17-27
編集 国立国語研究所日本語教育部門
〒190-8561 東京都立川市緑町3591-2
TEL:042-540-4300（代表）
FAX:042-540-4341
URL:<http://www.kokken.go.jp/jsl/>

2006

日 本 語 教 育 論 集

ISSN 1346-9762